



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.53 February 10, 2016

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。



新年のごあいさつ

われ「大老」と呼ばれむ

代表 宮本 倫好



New Year's resolution は英語圏で盛んで、jokedom も賑わいます。日本でも以前は新年になると年齢が増え、気分が改まりました。これが満年齢になったのは 1950 年で、当時年齢が逆戻りするという貴重な体験をしました。新年加齢は今でも韓国と中国の一部に残るそうです。面白いのはウマの年齢計算で、生まれ年は零歳ですが、正月に 1 歳ずつ増えるのが国際ルールといえます。

当クラブで最高齢の私は、年齢に無関心を装っています。米国原住民はかつて 10 以上を many で一括して、不便はなかったとそうですが、私も定年後は、年齢はできるだけ many で通しています。経済評論家・天野祐吉は厚労省提案の後期高齢者という呼称を嫌い、60 歳以上を老中、70 歳以上を中老、80 歳以上を大老と呼ぼうと提案しました。これなら私も大老になり、絶大な権力が伴うようでカッコいい。皆さんも私を「宮本大老」と呼んで下さって結構ですよ。

問題はおツムの方ですね。ド忘れ現象は高齢に不可避で、senior moment とはよく言ったものです。この表現は 1990 年代に米国に始ま

り、英国でも広く使われていますが、21 世紀になって情報の洪水やストレスの増加で、小さい頭脳がすぐいっぱいになる結果起こるとして、高齢者に限らないといえます。

これが moment でなくなれば深刻で、私は奈落に落ちるところをやっと踏み止まっている感じがします。若かった頃、関西の某現役作家に記憶力の減退を嘆いたところ、「ワシなんか女房の名前を 1 週間思い出さなかった」と慰められました。それ以来、不安になった時には、そっとカミさんの名を呪文のように唱えてみて「まだまだ大丈夫」と安心するのですが、いつその日が来るか。

我がクラブも老中、中老が増えていますが、老いを大いに笑いの種にしませんか。英語では senior jokes があふれていますが、日本の老いの話題は総じて暗い。笑いにすることさえはばかられ、差別呼ばわりされることもある。評論家の高井有一氏は「高齢者をユーモアで救おう」といっています。年齢など many で結構。老中、中老、大老の皆さん、大いに老いを笑い飛ばしましょう。



2015年 年間 MVP 表彰式風景

安藤 雅彦 MC



新年恒例の「表笑式」は、昨年に引き続き渋谷の超高級ビアホールにて開催。個室は本会のニーズに合わせて大幅改装され、参加者全員が余裕をもって座れ、抜群に居心地が良くなった。ピッチャーで提供の生ビールと会長の刺激的な挨拶で脳を活性化したところで、表彰式となった。

会場で佐川さんより配布されたリストによると、表彰対象者は延べ10人（ジョーク・コンテスト優勝者5人＋研究発表者5人）。このうち特筆すべきは小池会員がジョークコンテスト優勝3回と研究発表1回と、年に合計4回、前人未踏の偉業を達成されたことです。会長より **Most Valuable Player** の表笑状が授与され、いつもの副賞、当たればウンゼン万円の宝くじ4枚が総務担当取締役の植田さんより渡された。小池さんの優勝作品は全て一貫して **wife** か **woman** が主役であり、氏の人生哲学を彷彿とさせるものであった。なかでも僕が好きなのは、

**Every wife is a "Mistress" for her husband.
"Miss" for one hour and "Stress" for the rest
23 hours!** である。

英語でないとジョークにならない翻訳不能作品で、これに投票した本会会員のレベルの高さに敬服する。小池さんの受賞スピーチは今後のますますの活躍を予見できる力強いもので、嬉しさのあまりビールを再発注した。本年も英語ならではの作品を是非お願いします。

コンテスト優勝2回の村井さんの不参加は残念であったし、一昨年は優勝2回と奇跡のカムバックを果たした艶笑界の大立者相原さんの優勝が無かったのも淋しかった。

続く研究発表の部では、「科学技術の進歩にまつわるエピソードーその4」の服部さんから、本シリーズでは現代に至るまでにはまだまだで、「お楽しみはこれからよ」とのたのもしいお言葉。ミスター博覧強記、今年も楽しみにしています。

「ジョークは国境を越えられるか」の宮本代表からは、このテーマをさらに掘り下げても、新テーマに挑戦するも、融通無碍の様子が伺え、頼りにしております。

「ジョークの〇×ー若者4人の反応」の豊田さんは、昨年ライフワークの『ジョークで楽しむ英文法再入門』を上梓したこともあり、本年は余裕十分でパンがますます冴えてきそう。

「老愁快笑剤」の草野さんと **Grave Matters** の土屋さんは残念ながら不参加だった。なお草野さんの受賞は6年連続となり、さすが練達の剣士！とりあえず今年で7連続を成し、20連続を目指して精進をお願いします。

実行委員長件総合司会の中嶋さんの見事な仕切りとタイムマネジメントに拍手を贈ります。





Tall tale は「大げさなほら話」を言います。Tall は「背が高い」ではなく「とても信じられない」の意味です。そもそもジョークそのものが tall tale と言えますが、その中でも特に絶対にありえないバカバカしい話です。象や鶏などの動物が登場するものも tall tale と言えますが、ここでは人間界に関わるものをいくつか紹介します。この種のもを「そんなバカなことがあるか！」と腹を立ててしまうような人はジョークの世界には入れないことになります。

A boy in Rhode Island had a fever so high his little sister popped corn on his forehead.

(ロードアイランドの少年の熱があまりにも高かったので妹は彼の額でポップコーンを作った。)

A grandfather sneezed so hard he launched his teeth into other space. They are now orbiting

(祖父さんのくしゃみがあまりにも激しかったので歯を他の宇宙空間へ打ち上げてしまった。それは現在軌道に乗って飛んでいる。)

A teenager in Nebraska is growing so fast his shadow can't keep up with him.

(ネブラスカの 10 代の少年は成長が速すぎて彼の影は彼に追いついていけないでいる。)



© Alpsdake

A comedian in New York City has been banned from telling his best joke because it's so funny some people have died laughing.

(ニューヨーク市のコメディアンが彼の最良のジョークを語るのを禁じられたのは、それがあまりにおかしくて笑い死にする人が出てきているからだ。)

There's an intersection in Rome that has so many cars merging at the same place they hired an octopus to direct traffic.

(ローマのある交差点では非常に多くの車が一方所で合流するため、交通整理にタコを雇わねばならなかった。)



There's a huge the owner travels from his bedroom to the kitchen in a golf cart.

(ハリウッドの邸宅があまりにも大きいので所有者は寝室から台所までゴルフカートで行かねばならほどだ。)

I know a guy whose name was so long he had it tattooed on his arm so he could remember how to spell it.

(名前があまりにも長すぎるので綴りを覚えておくために腕に入れ墨をしてもらった奴を知っている。) これは落語の「寿限無(じゅげむ)」を思わせます。

Tall tale では 尤もらしく地名を入れるのが定番のようです。

どうぞよろしく =新入会員ご紹介=



三田弘美 (さんだ・ひろみ) さん

(お住まいは、東京都“寅さん”と同じ区です。)

1. 私にとってジョークとは

A: 「日々の生活の中でなくてはならないもの」

B: I know a lot of jokes about unemployed people —but none of them work.

2. 初めまして。私は洋画や英語圏のドラマを見て“*This is it!*”と思える英語表現を収集しております。今、一番のお気に入りの作品はアメリカの人気ドラマ「*Modern Family*」。人種やジェンダーを扱いながらも、誰もが軽く笑えるジョークに仕立ててあり、このドラマを見ると笑って元気になります。私自身はジョークを作ることはできませんが、「英語のジョークを楽しむ会」の皆様にご教授頂けましたら幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

【お知らせ】月刊文芸誌「群像」三月号（講談社刊・2月5日発売）に、土屋政雄会員のエッセイ「墓碑銘をめぐるぼくの悲鳴」が掲載されています。

WE, JOKERS No.53

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

発行日：2016年2月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

連絡先：jlcweb-renraku@eigojoker.com

第54回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：2016年3月19日(土)
14:00~16:00
- 会場：日本近代文学館 (2階会議室)
(東京都目黒区駒場 4-3-55、駒場公園内)
電話：03-3468-4181
- 交通：京王井の頭線「駒場東大前」駅(渋谷駅から二つ目)下車徒歩約7分。地図は、「日本近代文学館」のHPでご検索ください。

● プログラム

総合司会=豊田一男 会員

① 研究発表

「科学技術の進歩にまつわるエピソード
その5」服部陽一 会員

② 第30回ジョーク・コンテスト

MC=深澤満穂 会員

参加費：会員・非会員とも1,000円

連絡先：jlcweb-renraku@eigojoker.com

第30回ジョーク・コンテスト出品募集

1. 語数は、30 WORDS を上限とします。
 2. 出題数はお一人一題までとします。
 3. 出品されるジョークは、かならずしも自作のものである必要はありません。語数制限に合わせて、お気に入りのジョークに手を加えて出品される場合も多いようです。
 4. 必要と思われる場合には、注釈・イラスト・写真などを添えてください。
 5. コンテストは、2016年3月19日(土)の第54回研究発表会で行われます。
 6. 結果は、*We, Jokers* No.54, Joke Contest Supplement 紙上でも発表されます。
 7. 当日出席しない方も応募できますが、なるべくご出席をお願いいたします。
- 宛先：jlcweb-renraku@eigojoker.com
 - 締め切り：2016年3月6日(日)